

地域内フィーダー系統確保維持事業

一次評価資料

令和5年1月

飯能市地域公共交通対策協議会

令和4年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画/生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和5年1月 日

協議会名: 飯能市地域公共交通対策協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①運行事業者	②事業概要	③前回(又は類似事業)の 事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点 (特記事項を含む)
西武ハイヤー株式会社	飯能市乗合ワゴン 愛称:おでかけむーま号 系統:3系統(精明東・精明西・加治) 運行日:月・水・金 運賃:一律200円(各種割引あり) 車両:10人乗りワゴン(定員9人)	-	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	B 目標① 1便当たり平均利用者数(全系統合計) 目標値 5人以上 実績値 3.71人【未達】 目標② 収支率(経常経費に対する経常収入の割合) 目標値 20%以上 実績値 15.03%【未達】 ▶利便性向上による利用者の増加、運行収入以外の収入源の確保を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッシュレス決済の導入 ・より利便性の高い経路の検討 ・スマホ等での運行経路の検索 ・運行収入以外の収入源確保

事業実施と地域公共交通計画／生活交通確保維持改善計画との関連について

令和5年1月 日

協議会名:	飯能市地域公共交通対策協議会
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>飯能市地域公共交通計画(令和4年1月改訂) 基本方針:暮らしを支える地域公共交通の実現をめざして～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通～</p> <p>市内の公共交通が不十分である精明地区及び加治地区において令和3年3月10日から「飯能市乗合ワゴン」の実証運行を開始した。当ワゴンについては、市内拠点のひとつである東飯能駅と各地区を結ぶ移動手段として、その運行内容について地域住民と共に検討し、導入に至ったものである。主に運転免許を持たない高齢者等が買い物、通院等の日常の移動手段として便利に利用されており、今後も当該地区の主要な移動手段として確保維持していく必要がある。</p> <p>このため、本格運行の開始日である令和4年1月24日から地域公共交通確保維持事業により、飯能市乗合ワゴンの各路線(精明西・精明東・加治系統)を確保維持することで、住民の生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p>

令和4年度 飯能市地域公共交通対策協議会（埼玉県飯能市） （地域内フィーダー系統確保維持事業）

地域の公共交通等の現況・課題

バス路線は、飯能駅を起点として放射状に形成され、3社37系統（共同運行2系統含む）が運行している。また、市内の一部地域では公共交通空白地の解消のため、地域、事業者と連携してコミュニティバスの運行を開始した（2社9系統）。その他の移動手段については、バス路線がない地域においてNPO法人による自家用有償旅客運送の導入により移動手段が確保されている。また、スクールバスの住民混乗制度や施設送迎車を活用した移送サービスの導入など、地域資源を活用した移動手段の確保も進んでおり、公共交通を補完する端末交通として各地域で重要な役割を担っている。



交通計画の基本的な方針／定性的な目標

基本方針 暮らしを支える地域公共交通の実現を目指して

～市・交通事業者・地域が協働して「まもる・育てる・つくる」公共交通～

基本目標1: 地域の幹線交通としての路線バスを「まもる」 目標指標: 年間輸送人員／実車走行キロ

基本目標2: 路線バスを身近にして公共交通を「育てる」 目標指標: 路線バスを1年間に1回以上利用した割合

基本目標3: 生活を支える公共交通手段を「つくる」 目標指標: 将来（10年後）の外出に不安を感じる人の割合

面積	193.05km ²
人口（R4.4.1時点）	78,496人
15歳未満	8,253人
65歳以上	25,305人
高齢化率	32.2%

目標を達成するために行う事業の今年度実施状況

○飯能市乗合ワゴンの本格運行開始（R4.1.24～）…市内精明地区、加治地区を運行する飯能市乗合ワゴンについて、実証運行の結果や利用者意見を反映して、経路、運行時刻等を変更した上で、愛称「おでかけむーま号」として本格運行を開始した。

○支線となるバス路線の再編に伴う新しい移動手段の実証運行の開始（R4.9.1～）…国の地域旅客運送サービス継続事業を活用し、運行継続が困難となったバス路線の再編を実施し、地域住民や利用者の意見を反映しながら運行内容を検討し、R4.9.1から新しい移動手段の実証運行を開始した。

○名栗街道乗合バス開通100周年記念事業…市民のマイバス意識醸成のため、運行事業者、博物館等と協働し、記念展示、児童へのバスの絵の募集・展示、記念グッズ販売等を実施した。

アピールポイント

○地区検討会の開催と「みんなで考えようおでかけの足通信」の発行

飯能市乗合ワゴンの運行内容について、地域住民の意見を十分に反映するため、各地区の自治会長や民生委員等で構成する地区検討会を開催し、ワークショップ等を実施した。また、本格運行に際して乗込調査を実施し、ワゴン利用者に対してアンケート調査や聞き取り調査を行った。

○沿線施設における運行周知

沿線のスーパー、医療機関等計18か所にワゴンの停留所位置の案内を掲示した。

○市民にワゴン愛称を募集

飯能市乗合ワゴンの愛称を募集した結果、116点の応募から「おでかけむーま号」に決定した。



△おでかけの足通信



△愛称考案者に特別乗車証贈呈(左) 沿線施設での運行周知(右)

交通計画の計画期間

平成30年3月～令和4年3月

協議会開催状況

・第15回（令和3年10月20日）
飯能市乗合ワゴンの本格運行案についてほか

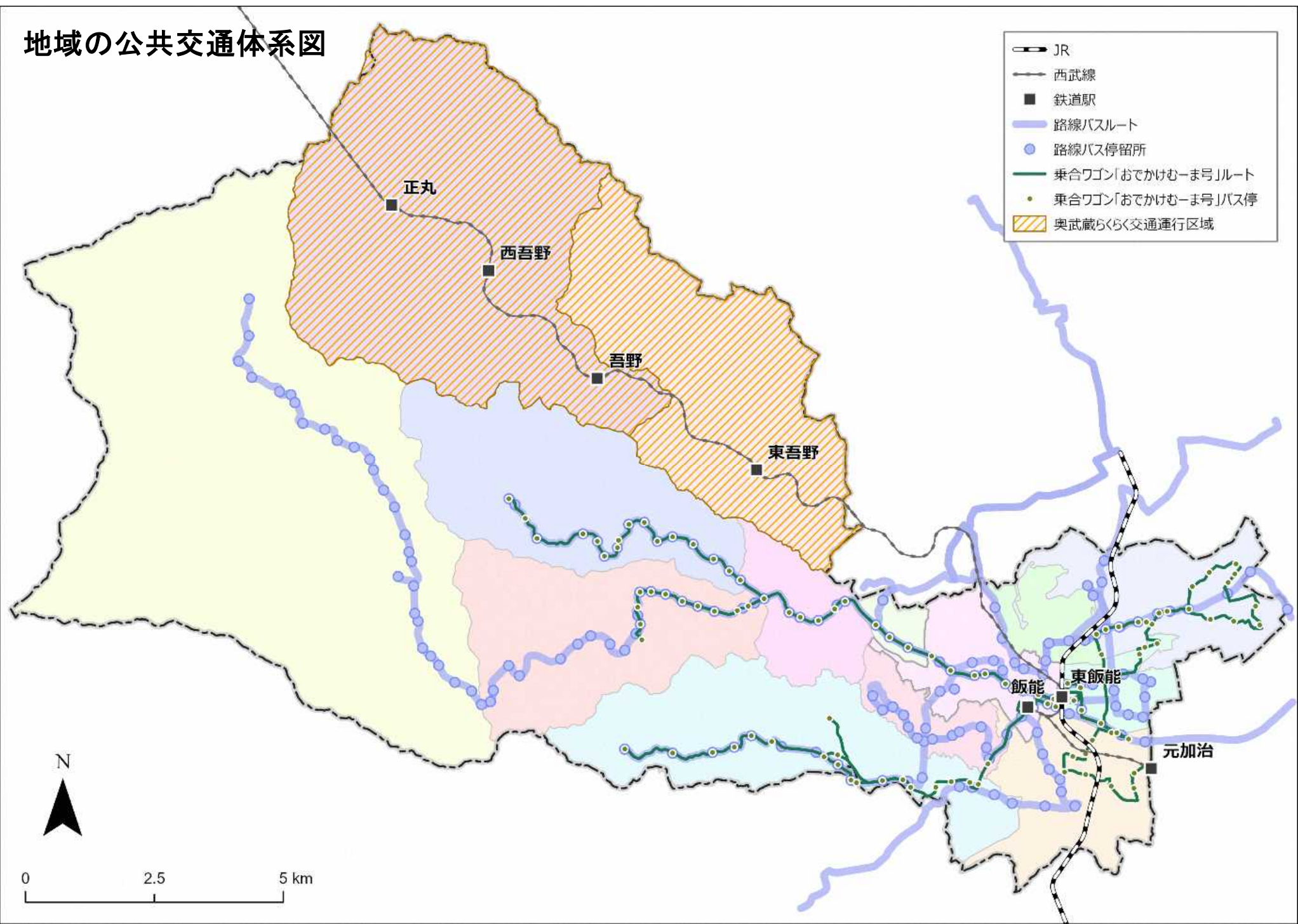
・第16回（令和3年12月書面開催）
飯能市地域公共交通計画の策定について

・第17回（令和4年3月1日）
支線となるバス路線の再編について ほか

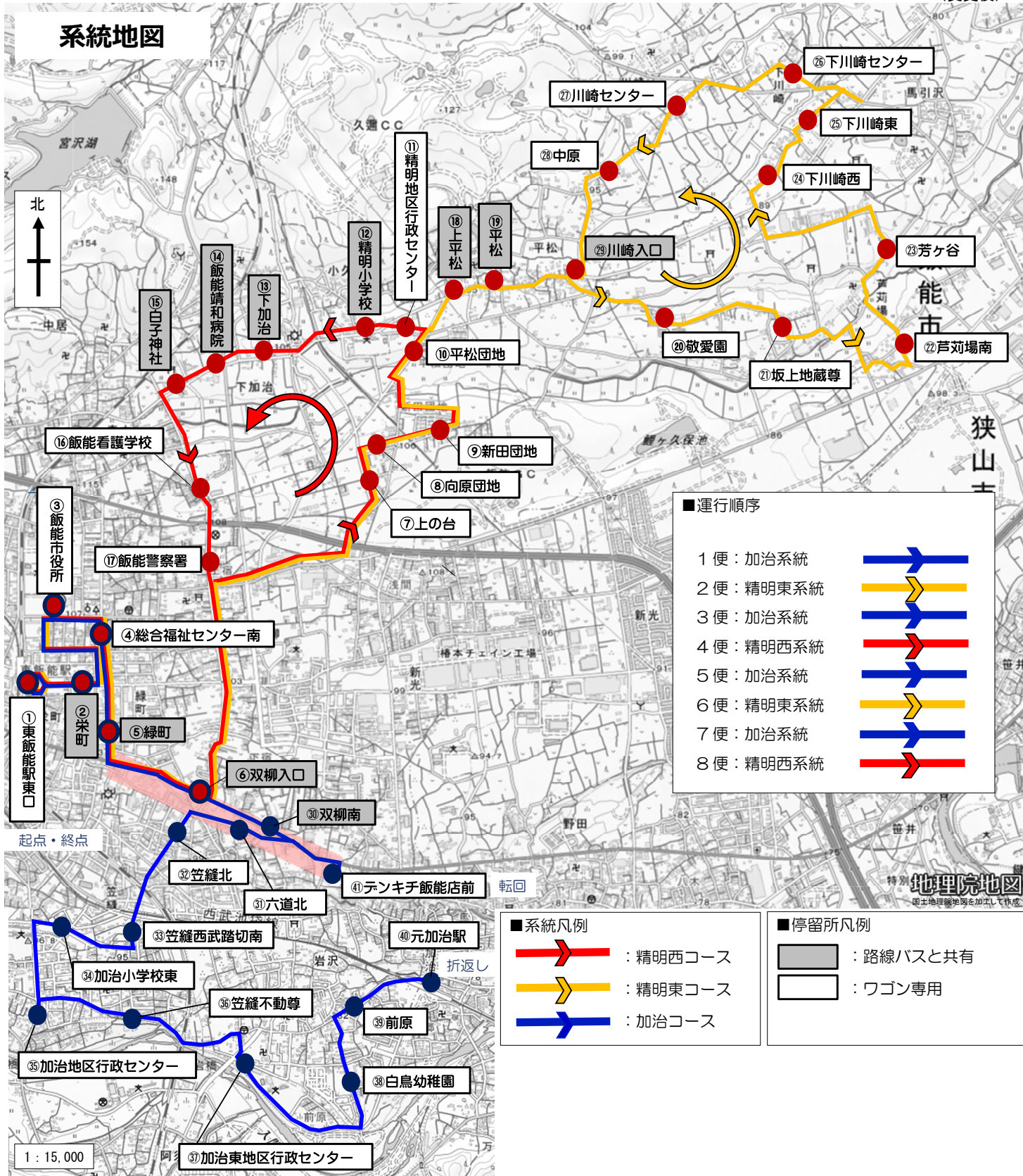
・第18回（令和4年5月30日）
飯能市乗合ワゴン運行状況及び国庫補助申請について ほか

・第19回（令和4年7月書面開催）
スクールバス混乗化に伴う運賃設定について

地域の公共交通体系図



系統地図



■運行順序

1便：加治系統	
2便：精明東系統	
3便：加治系統	
4便：精明西系統	
5便：加治系統	
6便：精明東系統	
7便：加治系統	
8便：精明西系統	

■系統凡例

	：精明西コース
	：精明東コース
	：加治コース

■停留所凡例

	：路線バスと共有
	：ワゴン専用

■フリー降車制度
乗車は停留所で行い、降車は運行ルート内の希望の場所のできる「フリー降車制度」を採用する。ただし、以下の場所は適用外とする。

- ・国道299号線上（地図中 で表記）
- ・法定の駐停車禁止場所
- ・その他、他の車両の通行を妨げるような狭い場所、カーブなどの見通しの悪い場所、傾斜や路面に段差のある場所

飯能市乗合ワゴン（精明地区・加治地区）運行実績 令和4事業年度



1 運行実績概要

- (1) 運行期間 令和4年1月24日～令和4年9月30日（※本格運行開始以降）
- (2) 運行日数 100日（月・水・金運行 ※祝日、12/29～1/3は運休）
- (3) 運行回数 800便（精明東200便、精明西200便、加治400便）

2 利用実績

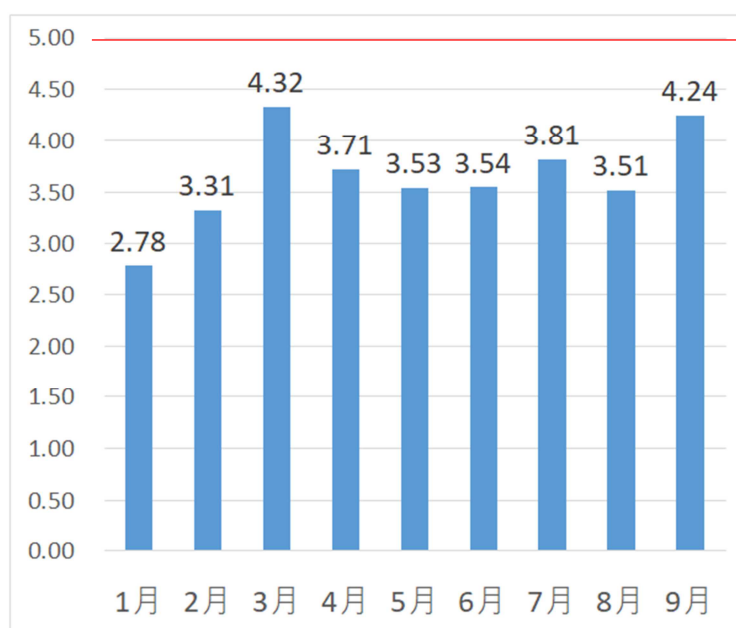
(1) 系統別

指標	精明東	精明西	加治	合計
1 実車走行キロ (km)	3,600	2,160	6,400	12,160
2 運行便数 (便)	200	200	400	800
3 輸送人員 (人)	970	691	1,303	2,964
4 1便あたりの利用者数 (人/便)	4.85	3.46	3.26	3.71

(2) 便別

便目 系統	1	2	3	4	5	6	7	8
	加治	精明東	加治	精明西	加治	精明東	加治	精明西
1 運行便数 (便)	100	100	100	100	100	100	100	100
2 輸送人員 (人)	177	689	486	520	408	281	232	171
3 1便あたりの利用者数 (人/便)	1.77	6.89	4.86	5.20	4.08	2.81	2.32	1.71

(3) 月別の1便あたりの利用者数 (人/便)



目標値 (5人以上)

(4) 停留所別の利用者分布 ※別紙のとおり

3 収支実績

(1) 運行経費、運行収入、欠損額

①運行経費		3,285,996 円
②運行収入		493,910 円
③欠損額		2,792,086 円
欠損額負担内訳	(市)	1,397,086 円
	(国庫申請額)	1,395,000 円

(2) 収支率：15.03% (目標値 20%以上)

(3) 国庫補助金の申請状況

地域内フィーダー系統確保維持補助金

- ・ 令和4年度事業 (R4. 1. 24~R4. 9. 30) 計画認定済み、交付申請済 (審査中)
- ・ 令和5年度事業 (R4. 10. 1~R5. 9. 30) 計画認定済み

4 その他の取組

(1) 市民にワゴンの愛称を募集 (令和3年8月~令和4年1月)

市民に対するワゴンの運行周知及び愛着醸成のため、本格運行開始に際して飯能市乗合ワゴンの愛称を募集した。116点の応募があり、審査の結果、愛称は「おでかけむーま号」に決定した。

(2) 市広報紙に特別ページを掲載 (令和4年1月~)

本格運行に際して市広報紙に飯能市乗合ワゴンの運行経路、時刻表、使い方等を掲載し、市民に広く周知した。また、市内の路線バス等を迷わず利用できるよう作成する「飯能市公共交通マップ」内に飯能市乗合ワゴンの路線等を掲載し、利用周知を図る予定である。



(3) 地区行政センターだよりに利用状況を掲載 (毎月)

毎月発行される「地区行政センターだより」にワゴンの利用状況 (便別の利用者数等) を掲載し、積極的に利用を呼びかけることで、沿線の地域住民に対してモビリティマネジメントを実施した。

(4) 沿線施設における運行周知 (通年)

路線の周知を図るため、沿線のスーパー、医療機関等計18か所にワゴンの停留所位置の案内を掲示した。



5 今後の課題

- (1) 交通系 IC カード等によるキャッシュレス決済の導入
- (2) スマホ等での運行経路の検索 (標準データフォーマット化)
- (3) 道路開通による、より利便性の高い経路の検討
- (4) 運行収入以外の収入源の確保策の検討

飯能市乗合ワゴン 停留所別利用者分布図

